

●避難場所の位置を確認しましょう

浸水ハザードマップでは、避難距離が出来るだけ短くなるように、地区・町内会ごとに浸水時の避難場所を指定し、その位置と避難の方向を矢印で示しています。

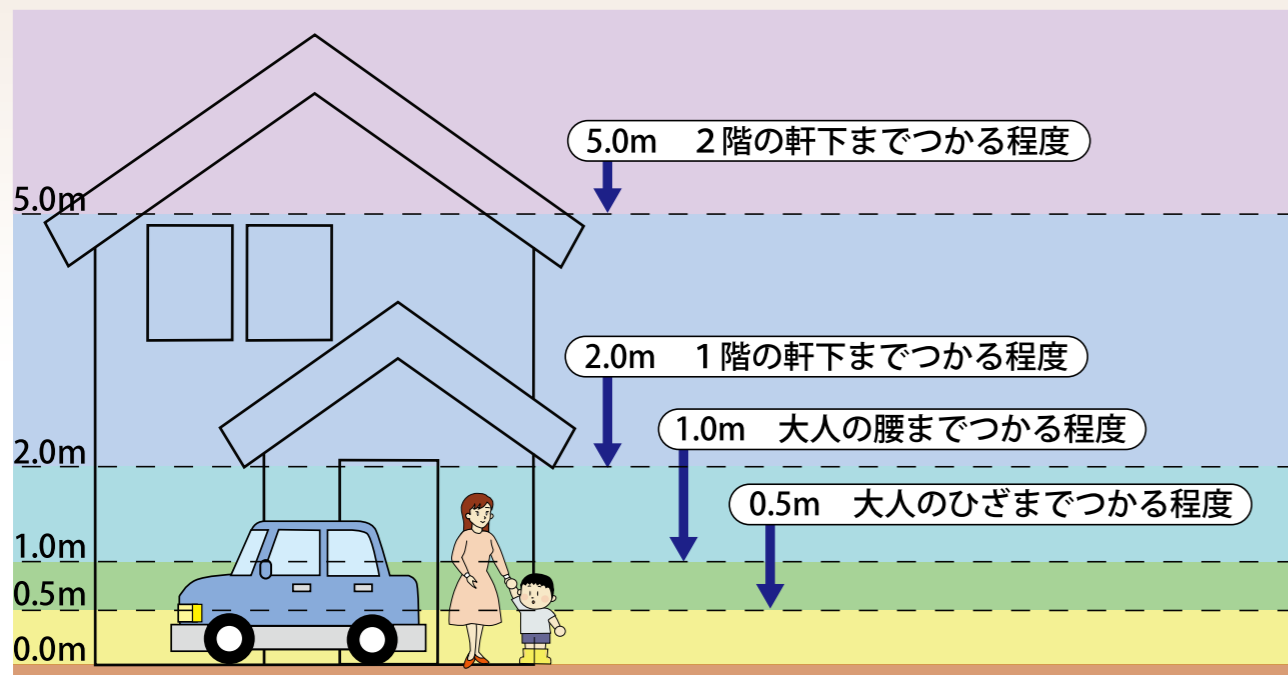
自分の地区の収容避難場所の位置を確認しましょう。



●予想される水深を確認しましょう

浸水ハザードマップでは、下の図のように、予想される水深を色別で表しています。

大人でも水深が50cmを超えてからの歩行は危険です。また、水の流が早いと20cmでも歩行困難となりますので早めに避難しましょう。



●避難ルートを記入しておきましょう

避難場所を確認したら、大雨による浸水の場合（内水はん濫）の浸水ハザードマップを参考に、浸水が予想される道路を通らないよう注意し、避難ルートを検討しましょう。

大雨による浸水の場合



洪水による浸水の場合



自宅から避難場所に行く避難ルートを浸水ハザードマップに記入しておきましょう。



記入した道路を実際に歩いてみて、危険な箇所がないかどうか確認しましょう。浸水時には、側溝やふたのあいたマンホールなどが見えなくなり、大変危険です。